

報道関係者各位

国立大学法人 筑波大学

「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を開講

【ポイント】

- 筑波大学の多様な研究者が実施している、新型コロナウイルスの影響に関する最先端の研究を学生に還元する「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を令和 3 年度 4 月に開講する
- 人間系・人文社会系・システム情報系・医学医療系・ビジネスサイエンス系・芸術系の研究者によるオムニバス形式の授業で、学際的な視点で新型コロナウイルスが社会に与えた影響を学べる授業の開講は、世界的にも独自性が高い
- 教職員、URA の有機的な連携により実現。研究の成果を教育に反映させるサイクルを通して、研究と教育の好循環を目指す
- 卓越した研究力を誇る総合大学の特徴を生かし、学際的に新型コロナウイルスの影響を分析する新たな学問分野の創生を目指す

国立大学法人筑波大学（学長：永田 恭介、以下本学）は、新型コロナウイルスの影響に関する最先端の研究を学生に還元する「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を令和 3 年度 4 月に開講します。総合大学である本学の特徴を生かし、人間系・人文社会系・システム情報系・芸術系・医学医療系・ビジネスサイエンス系の研究者によるオムニバス形式の授業を実施します。多様な分野の新型コロナウイルスに関する最先端の研究を学生に還元する、世界的にも独自性の高い試みです。

本学は 1973 年の開学以来今日に至るまで、社会との関係を重視し、社会のニーズに応える研究・教育を行ってきました。その一環として、新型コロナウイルスに対応するため、「新型コロナウイルス緊急対策のための大学「知」活用プログラム」として、ウイルス学、医学・生物学、健康科学、数理科学、情報学、教育学、社会心理学、社会政策学、法学、経済学、芸術学等の 27 プロジェクトが実施されています。この多様な知を学生に還元するため、新型コロナウイルスが社会に与えた影響を扱う「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を開講することとしました。

「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を通し、異なる専門分野を持ち、異なる教員組織に所属する研究者がともに授業を創り上げることでコミュニティを形成し、新たな共同研究等の契機とし、質の高い研究・教育を循環させることで、社会に貢献する研究・教育を展開していきます。

【背景】

2020年以降、新型コロナウイルスが社会問題化しています。世界各国で多くの感染者、死者が出ており、感染拡大予防のために個人の活動の制限が余儀なくされています。新型コロナウイルスへの対応を考える際には、ウイルス学をはじめとする自然科学のみならず、社会・経済的な影響を検討する社会科学、新たな文化のあり方について検討する人文学の視点を含めた学際的な視点が必要です。

そこで本学では、総合大学としての知を総動員して新型コロナ危機に立ち向かい、その成果をいち早く社会に伝えることを目的として、URA 研究戦略推進室が「新型コロナウイルス緊急対策のための大学「知」活用プログラム」を企画し、27件のプロジェクトが実施されています。全学対象(文理芸術・体育含む)の公募としては日本初の試みであり、研究成果は学会や学術誌での発表を始めとして、ニュースや新聞等で報道され、社会的に大きなインパクトを与えています。

多様な分野における新型コロナウイルスの影響に関する研究の最先端の知見を学生に還元するため、研究から教育へのフィードバックに熱意を持つ研究者が授業を構想し、教員組織である系を横断して配置されているURAと議論を行い、本学の柔軟な仕組みを利用した職員の迅速な対応により、「TSUKUBA 新型コロナ社会学」を開講することとなりました。

【講義の特色】

6の系(人間系・人文社会系・システム情報系・医学医療系・ビジネスサイエンス系・芸術系)に所属する10人の研究者が、それぞれの新型コロナウイルスに関する研究(医学、経営学、健康科学、社会福祉、国際比較、障害科学、政治学、法学、芸術等)の知見を共有します(詳細は別紙シラバスを参照)。授業は主に日本語で開講されますが、英語による授業も実施され(日本語によるサポート有)、日英両語で新型コロナウイルスの影響に関するグローバルな研究の最先端の知見に触れることができます。本科目は令和3年度においては、オンラインで行う予定です。

本科目は自由科目として開講され、全ての学生を対象としており、専門の異なる学生が、新型コロナウイルスという喫緊の社会問題を契機として、様々な学問に触れ、科学や学問の役割について考えることが期待されます。また知識の共有にとどまらず、学生の問題意識に基づいた学びを促進するため、新型コロナウイルスに対応するための学問の役割について考えるレポートが課されます。さらに、開学以来の「開かれた大学」の理念に基づき、科目等履修生の受講も可能とすることで、新型コロナウイルスと学問に関心のある多様な社会層に貢献します。

【今後の展望】

本科目の開講により、研究と教育の有機的な循環が期待されます。本科目運営のために研究者が議論を重ねており、研究者の学際的なネットワークの構築や共同研究の基盤となることが見込まれます。また、新たな社会的課題である新型コロナウイルスと学問について研究者と学生が議論を行うことで、新たな研究のあり方を構想できる可能性も秘めており、研究と教育の有機的な循環が期待されます。

また、新型コロナウイルスへの対応のあり方や、新型コロナウイルスが学問や社会観に与えた影響を学際的に検討する新たな学問分野の創生に取り組みます。社会的ニーズに応え、グローバルに通用する新たな学問分野の創生を目指し、卓越した研究力を誇る総合大学かつ指定国立大学法人として、最先端の研究・教育を牽引していきます。

【参考情報】

<新型コロナウイルス緊急対策のための大学「知」活用プログラム ウェブサイト>

https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/

<科目等履修生制度について>

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/other-auditors/gun/>



筑波大学

「知」活用プログラム

< 本件に関する問い合わせ先 >

筑波大学 人文社会系 助教
秋山 肇

筑波大学 教育推進部教育推進課

Tel: 029-853-2243

E-mail: kyomu-group@un.tsukuba.ac.jp